

特集

◇「ようこそ。おかえりなさい」

◆交流から滞在、そして定住へ

- 民泊
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業

おかえり



旧割元庄屋「美濃地屋敷」を管理する皆さん。前列左から清寺智恵子さん、青木美知子さん、鼠谷松夫さん、後列左から清寺良嗣さん、入澤敦美さん、長屋龍夫さん

「ようこそ。おかえりなさい」

先祖が守り継いだ家や田畑があるから、子どもたちも帰る場所があると思うんです――

車で10分も走れば広島との県境に位置する益田市匹見町道川の元組集落は、西中国山地の山間にある小さな集落です。某月某日。国道191号に設けられた電光掲示板には「0℃」の文字が赤く点灯し、水溜りに氷が張る朝を迎えました。時計の針が6時30分を指すころ、入澤敦美さん(70)と隣人の本間篤誌さん(49)は、それぞれの家の玄関から姿を現し、車庫の前で向き合ったかと思うと、ラジカセか

ら流れる音楽に合わせて、ラジオ体操を始めました。健康維持のために始めた「日課」は、もうすぐ丸2年を迎えます。

都会での生活、そして故郷へ

元組集落で生まれ育った入澤さんは、益田市内の高校を卒業後、叔父を頼って大阪へ。電気関係の仕事に興味があったことから、昭和41年、大手電機メーカーに入社

しました。折しも、ラジオからパトンを受け継いだテレビ全盛の幕開けとなり、カラーテレビが普及していきます。「工場内には6列ものコンベアが並び、カラーテレビが次々と量産されていた」と、当時を振り返ります。テレビを作る工場内での現場管理や、プラントを輸出する業務等に携わったのち営業部門へ転属となり、電卓の営業を担うことになりました。

当時20万円は下らない電卓が、

会社で1台の時代。「競合する会社もく、上司からは数字を求められ、かなりしんどかった」と振り返ります。ですが、その経験のお陰で、「初対面の人と仲良くなる術や良好な人

退職後も名古屋と道川を往復していましたが、心身とも遠距離介護に限界を感じて、平成29年3月、道川へ住所を移しました。



道川産そば粉を使った手打ちそば



ラジオ体操後に情報交換をする入澤敦美さん(左)と本間篤誌さん



身体に良いラジオ体操は、雨天と冬期間を除き毎日行っています

心強い存在

道川に知人友人は数えるほど。

若い人との面識もなく、生まれ故郷とはいえ、とまどうことも少なくなかった入澤さん。そんなとき、同じ集落に暮らし、中学時代の恩師であり、道川公民館長も務める三好成子^{しげこ}さん(79)は心強い存在だったといえます。

三好さんは入澤さんが遠距離介

護をしているときから、高齢者サロン「きばらしの家・三の滝」への参加を勧めたり、Uターン後は、旧割元^{きりわりもと}庄屋「美濃^{みの}地屋敷」の管理人の仕事を紹介したりと、地域との橋渡しを行ってきました。

また、三好さん宅でのそば打ち体験がきっかけとなって、道川住民らでつくる「匹見川源流道川そば打ち同好会」への入会につながり、同好会メンバー達からは、「人手不足の中で戦力になっている」

喜ばれています。



恩師の三好成子さんと。
「僕にとっては、いつまで経っても“先生”です」と入澤さん

道川の移り変わりを知る三好さんは、「燃料革命や昭和38年の豪雪以降、たくさんの方々が都会に就職しましたが、そんな中でも先祖が家や田畑を守ってきた地域だからこそ、子どもたちも帰る場所があると思うんですよ」と話します。「若者がおらずお年寄りが多い地域に、＼ようこそ、帰ってくださいね。おかえりなさい」と言いたいんです。地域のために動いてもらえますし、有難いです。



手打ちそばを作る入澤さん(左)と同好会メンバー

入澤さんの存在に元気をもらっています」と、教え子の帰郷を喜んでいきます。

時間はいくらあっても

用事の無い日は、メダカや金魚の世話をしたり、クロモジの木を切って、「道川精進料理の会」が会食の際に使う爪楊枝をこしらえたりと、時間はいくらあっても足りません。名古屋ではマンションのベランダでトマトやキュウリを育てる程度でしたが、帰郷後は同級生に教えてもらい、本格的に野



“前任者”から指導を仰ぎ、小刀を使って丁寧にクロモジの爪楊枝を作っています



菜作りに汗を流し、褒められるまでに上達しました。「動物でも野菜でも成長していく段階が楽しみ」なのだそうです。

とにかく「じっとしてられない」性格。「冗談でも言いながら、みんなとわいわいやるのが性に合うね。近所も良い人ばかりだし。居酒屋が無いのが寂しいけどね」。入澤さんはそう言うと、少年っぽく笑いました。

故郷での生活も1年を過ぎました。極寒の冬が去り、待ちわびた春の到来。野菜作りや地域活動…。入澤さんにとって忙しい毎日が始まります。

～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇民泊…匹見町には、4軒の民泊があります。



民泊
みよし
「三四四」

《体験内容》

ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020



農家民泊
うつだに
「内谷とちの郷」

《体験内容》

わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もちつきなど

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589



農家民泊
なごうばら
「長尾原のへや」

《体験内容》

農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、ようかん、ジャムなど）

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471



林家民泊
ほんま
「本間ん家」

《体験内容》

囲炉裏と七輪での食事作り、薪割り、薪で風呂を焚く体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町道川イ177
Tel. 090-8878-0095

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》



施設区分	戸数	使用料(月額)
単身用(1DK)	2	8,100円
世帯用(3DK)	2	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)

匹見への定住をお考えの方は…

◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

//// 空き家に関する各種事業 ////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域づくり推進課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0305 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>